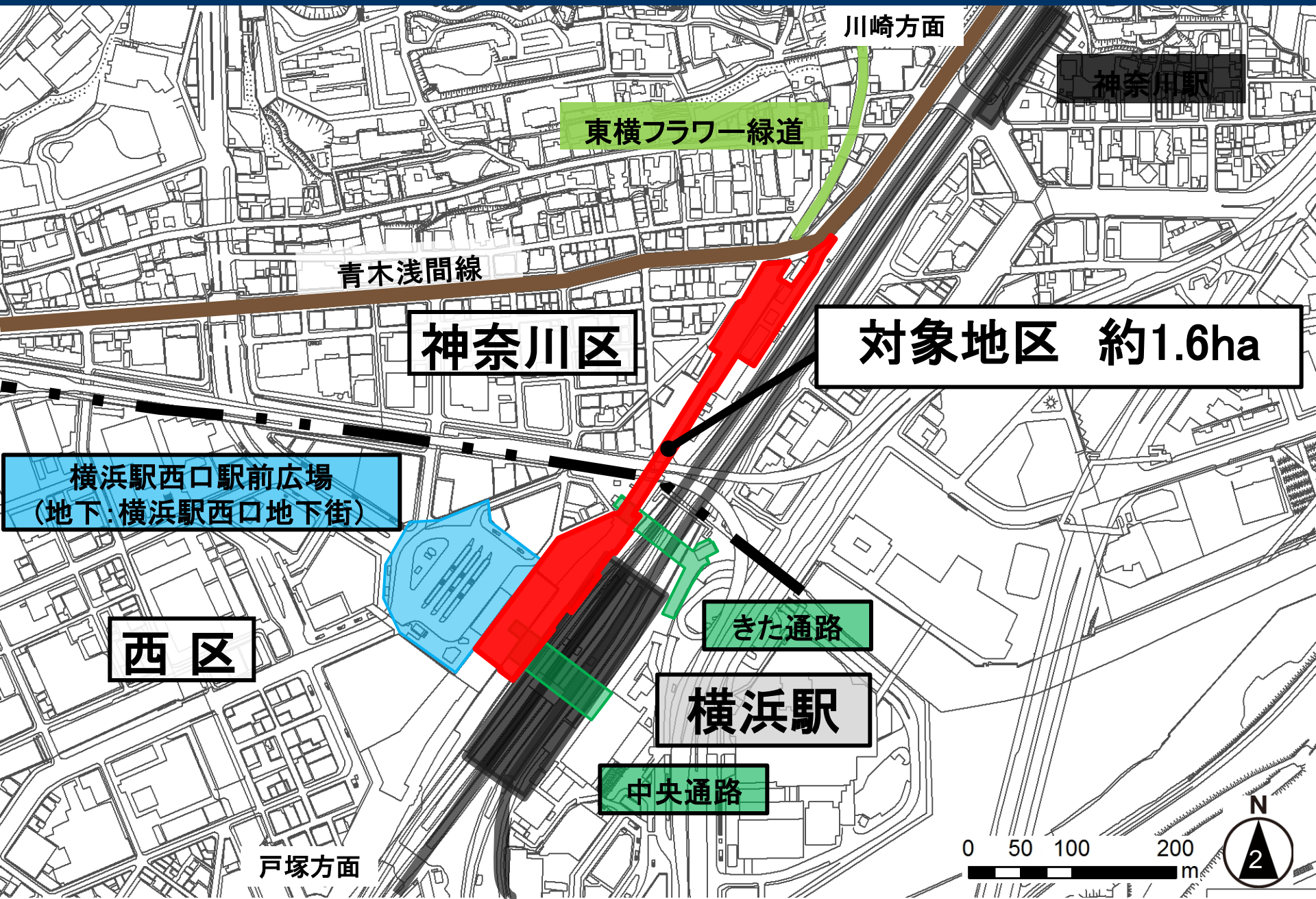


第6回エキサイトよこはま22 懇談会

平成26年度の主な取組

- ①（仮称）横浜駅西口駅ビル等 都市計画決定
- ② 鶴屋橋架け替え 本格着工
- ③ 国家戦略特区 区域計画素案
- ④ 横浜駅東口地区（ステーションオアシス）開発推進協議会の開催等
- ⑤ 防災の取組
- ⑥ エリアマネジメントの推進
- ⑦ 横浜市の計画（中期4か年計画、都心臨海部再生マスタープラン）

① (仮称) 横浜駅西口駅ビル等 都市計画決定

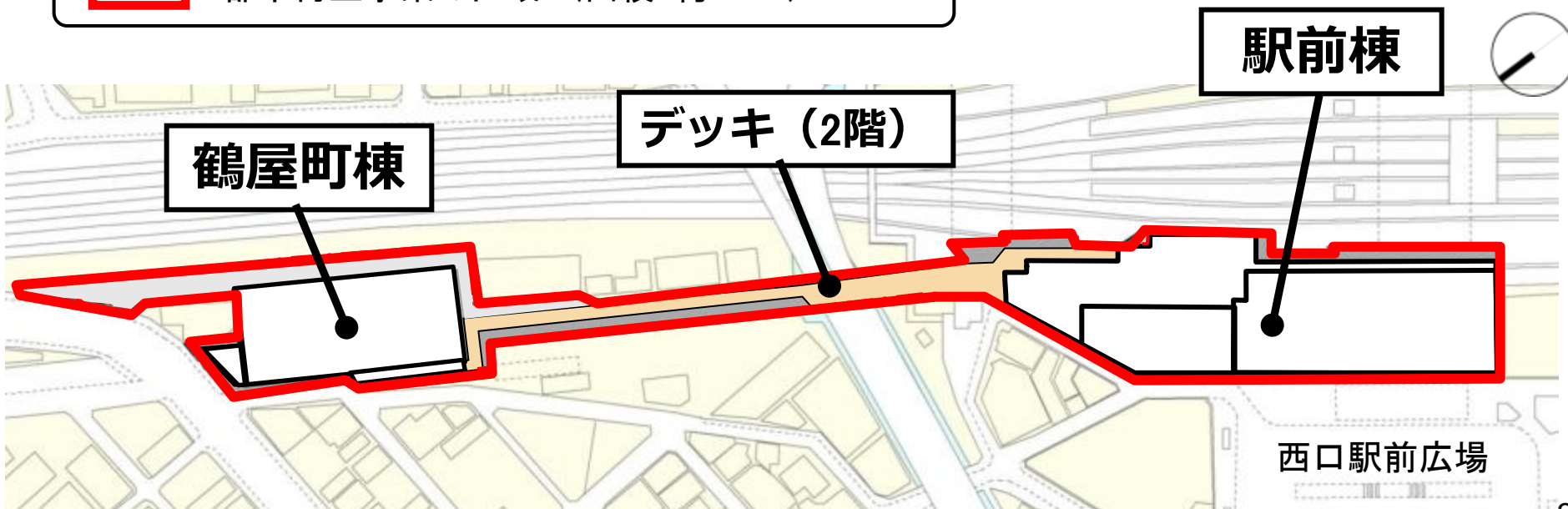


①（仮称）横浜駅西口駅ビル等 都市計画決定

建築物	鶴屋町棟	駅前棟
敷地面積	約5,000m ²	約8,700m ²
延床面積	約24,000m ²	約94,000m ²

【配置図】

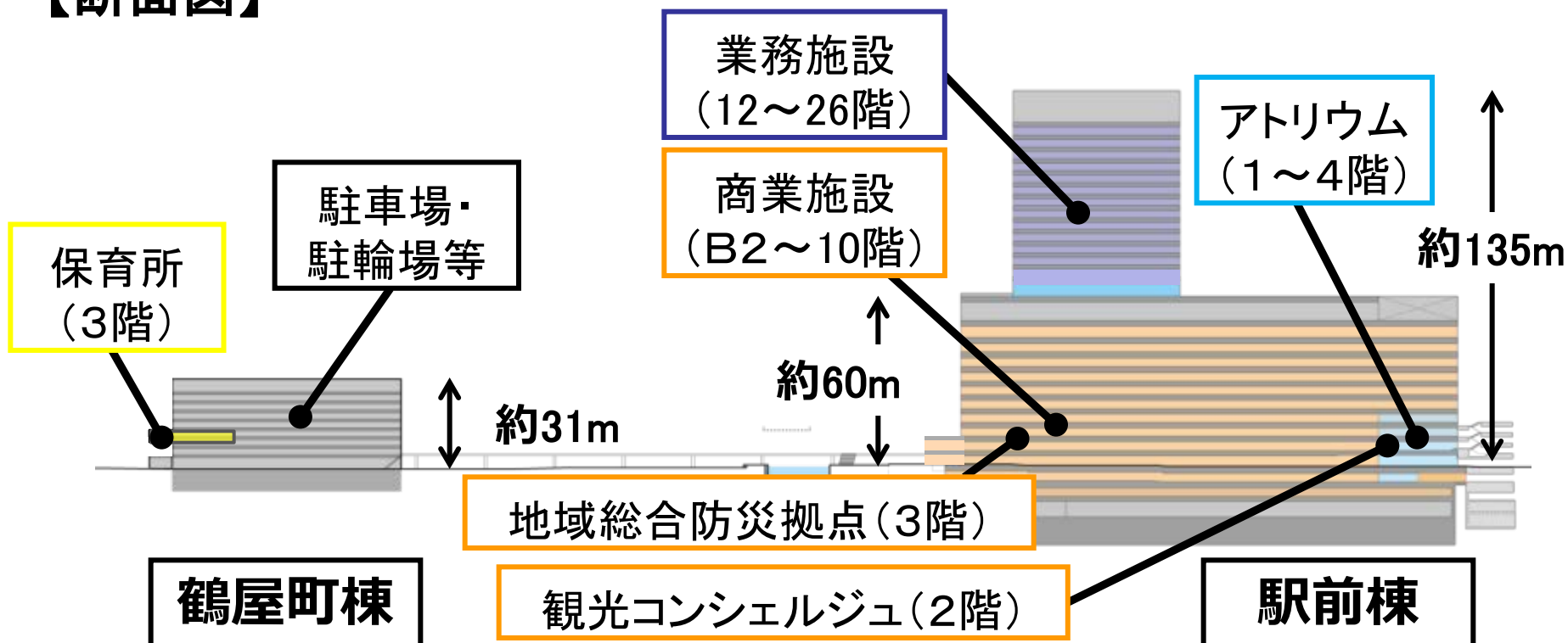
 都市再生事業の区域（面積：約1.6ha）



①（仮称）横浜駅西口駅ビル等 都市計画決定

建築物	鶴屋町棟	駅前棟
建物高さ	約31m	約135m
階数	地上9階	地上26階 地下3階

【断面図】



① (仮称) 横浜駅西口駅ビル等 都市計画決定

駅前棟

※西口駅前広場から見た
イメージパース

業務施設
(12～26階)

商業施設
(B2～10階)

アトリウム
(1～4階)

※ 現時点で提案者が想定しているイメージであり、今後変更になることがあります。 5

③ 国家戦略特区 区域計画素案

グローバル企業の就業者や経営層、その家族の居住ニーズの受け皿となり、ホテルやサービスアパートメントを併設した防災・環境性能に優れた住宅を誘導します。

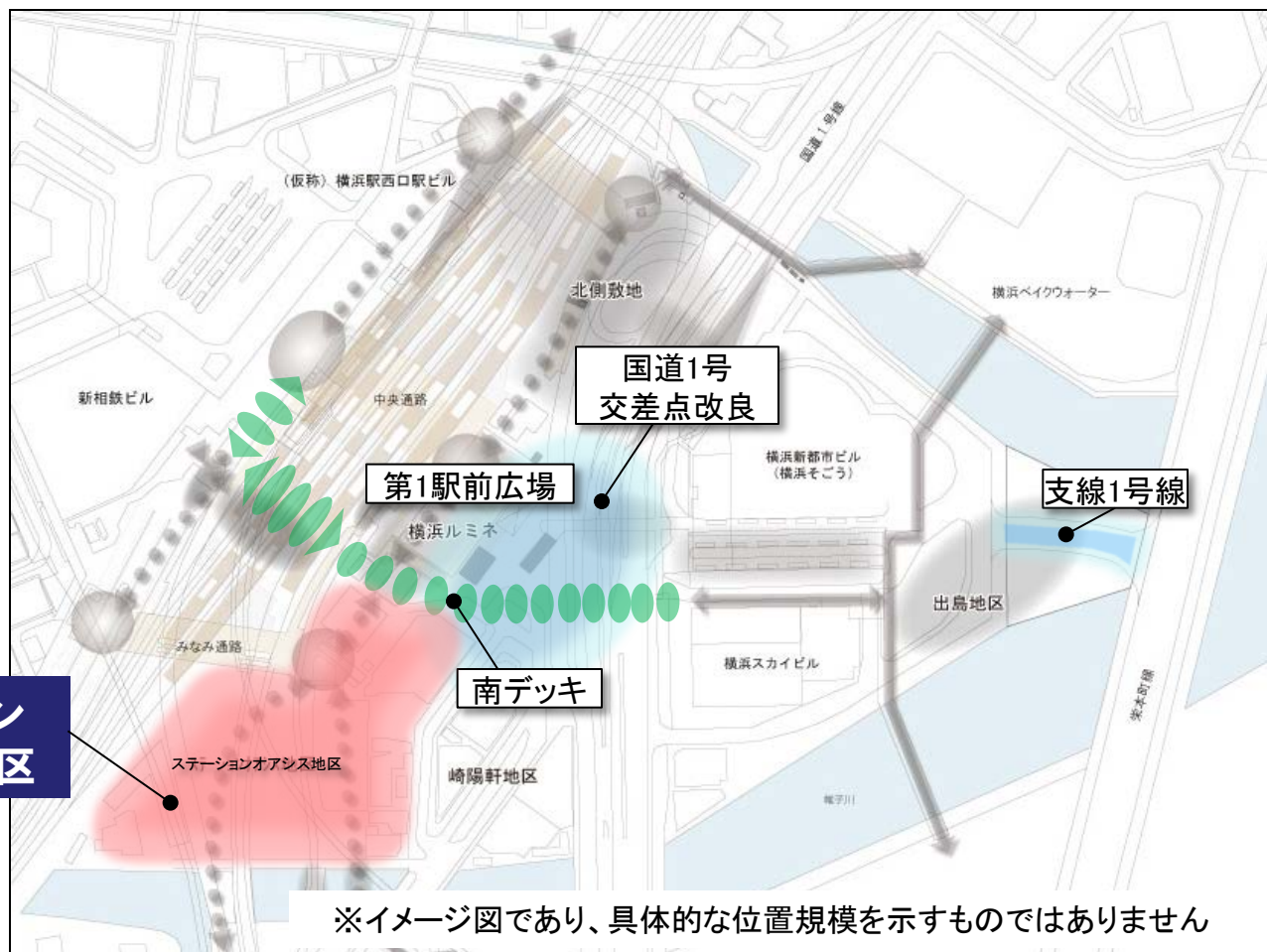
- 9月30日 東京圏区域会議の構成員に、
横浜駅きた西口鶴屋地区市街地準備組合様が選定
- 10月1日 東京圏区域会議において、区域計画素案 策定
(鶴屋地区の事業が掲載)

※国家戦略特区指定を契機に、横浜駅東口では、環境への配慮を確保したうえで開発推進を図るため、高層建築物の建設に係る環境アセスメントの規模要件を緩和しました。

④ ステーションオアシス協議会の開催等

○ 横浜駅東口地区開発（ステーションオアシス）推進協議会 （日本郵政、東日本旅客鉄道、京浜急行電鉄、横浜市）

・駅前広場、南デッキ、国道1号線交差点改良、栄本町線支線1号線等の東口基盤整備検討と連携して調整を進めています。



⑤ 防災の取組

「横浜駅地域総合防災拠点」の設置

新たに建築される「（仮称）横浜駅西口駅ビル」内の200㎡のスペースに「横浜駅地域総合防災拠点（仮称）」を設置予定。

発災時における「対策会議」及び「情報連絡本部」のスペース、また「横浜駅周辺混乱防止対策会議（部会を含む）」のスペースとして活用する予定。



イメージ写真



イメージ写真

⑥ エリアマネジメントの推進

「エキサイトよこはまエリアマネジメント協議会
(はまマネ協議会)」活動の本格化

1 会長の選任・会則等の制定

横浜駅東口・西口振興協議会が交替で会長に
(初代：横浜駅西口振興協議会 事務局長)

2 「はまマネ協議会」の後援によるイベントの開催

- 「横浜・地恵地楽マルシェ」
- 「横浜西口夏まつり」 など



「横浜・地恵地楽マルシェ」



「横浜西口夏まつり」

⑦ 横浜市の計画（中期4か年計画）

計画期間　：平成26～29年度の4年間

計画の構成：平成37年を目標とする骨太なまちづくりの
戦略と、計画期間の4年間での取組を示します。

「未来のまちづくり戦略」

戦略1　あらゆる人が力を発揮できるまちづくり

戦略2　横浜の経済的发展とエネルギーの循環都市の実現

戦略3　魅力と活力あふれる都市の再生　→都心臨海部の再生・機能強化

戦略4　未来を支える強靱な都市づくり

「基本政策」（36施策）

視点1　女性・子ども・若者・シニアの支援

視点2　市民生活の安心・充実　→（施策10）災害に強いまちづくり（地震・水害等）

視点3　横浜経済の活性化　→（施策20）経済成長分野の育成・強化

視点4　都市機能・環境の充実　→（施策25）魅力と活力あふれる都心部の機能強化

⑦ 横浜市の計画（都心臨海部再生マスタープラン）

目標年次 ： 2050年（第一段階の目標年次は2025年）

2050年の将来像

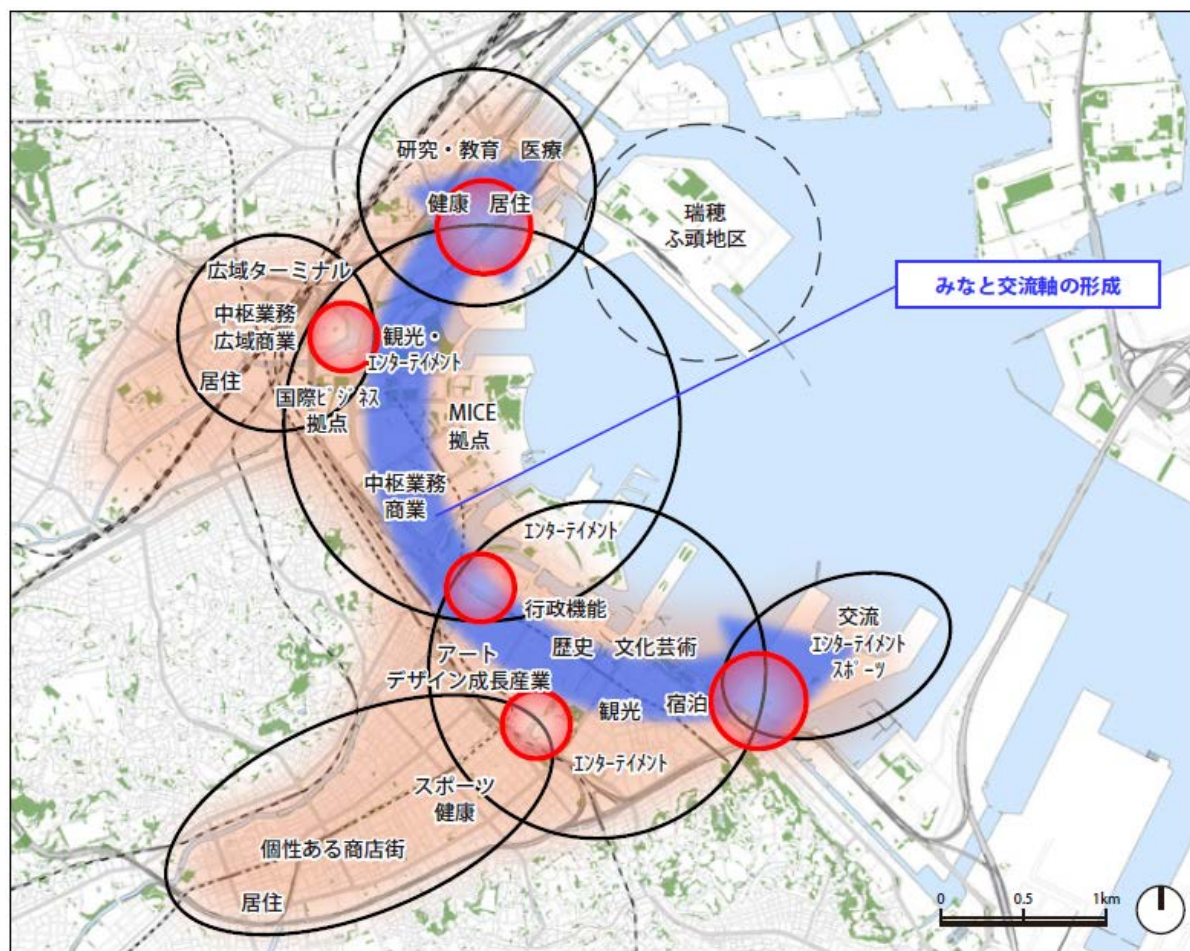
「世界が注目し、横浜が目的地となる新しい都心」
～都心臨海部を中心とした新しい横浜ライフの実現～



⑦ 横浜市の計画（都心臨海部再生マスタープラン）

将来像の実現に向けた3つの基本戦略

- 基本戦略1 次の時代の横浜の活力をけん引するビジネス・産業づくり
- 基本戦略2 豊かな想像力・市民力が息づく横浜スタイルの暮らしづくり
- 基本戦略3 個性豊かなまちの魅力をつなぎ港と共に発展する都心づくり



平成27年度以降の取組・検討事項

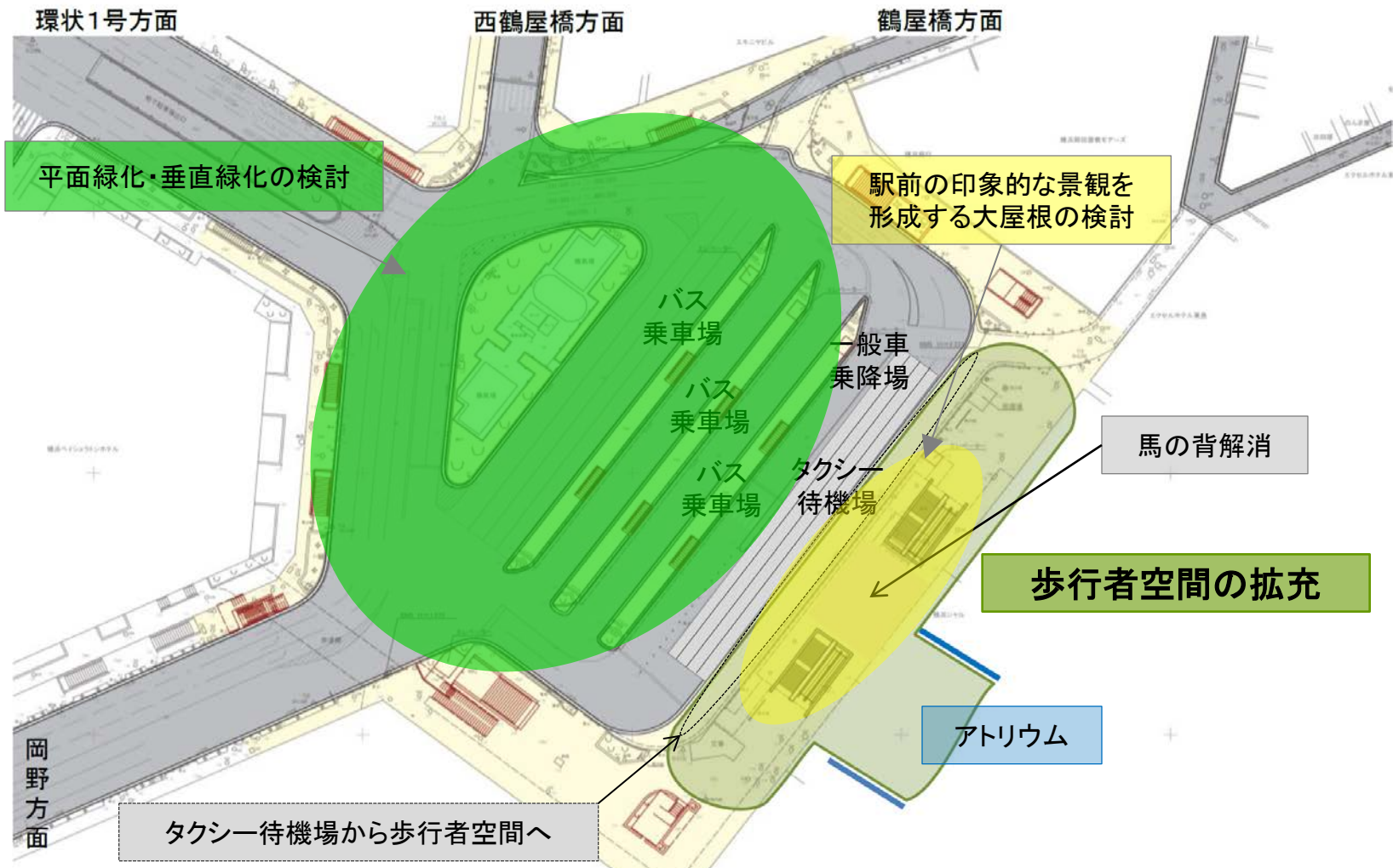
- A 基盤整備の推進**
- B 民間開発の促進**
- C 官民連携のまちづくり**

A 基盤整備の推進

- ・ 西口駅前（西口中央駅前広場、馬の背解消工事着工、西口駅前）
- ・ 鶴屋橋架け替え、きた西口
- ・ 東口駅前 基盤整備検討
- ・ 防災（内水対策、地下街）

A 基盤整備の推進（西口中央駅前広場）

西口駅前広場改修整備事業

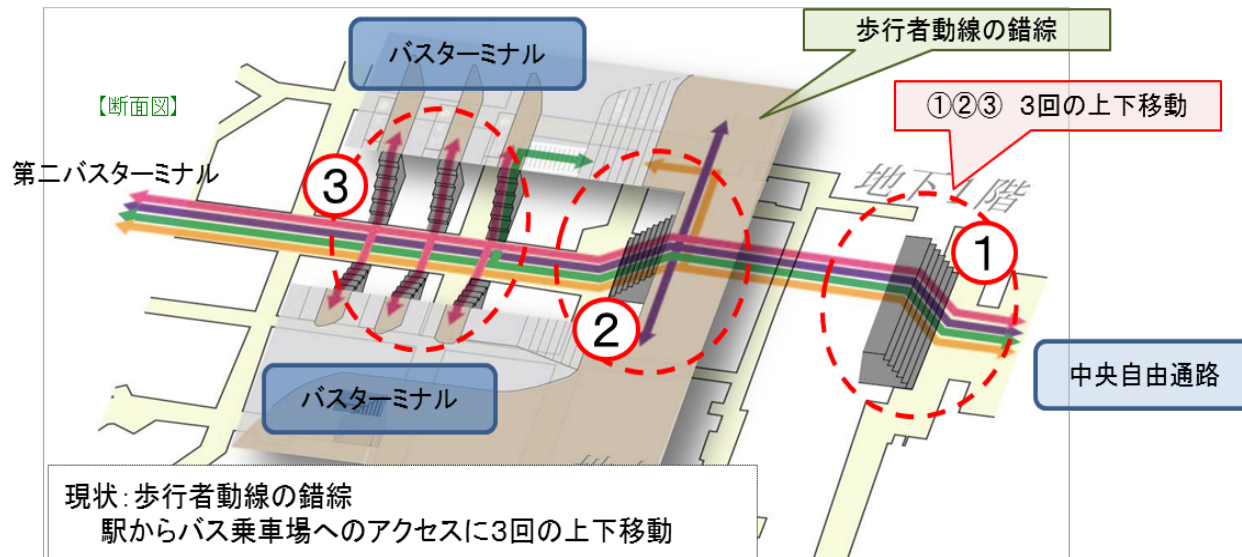


※第1ステップとして西口駅ビル計画と連動した駅前広場の改修(歩行者空間の拡充)を進めます。
※将来の駅前広場の拡充・再編については、関係者において検討会を立ち上げ検討を進めます。

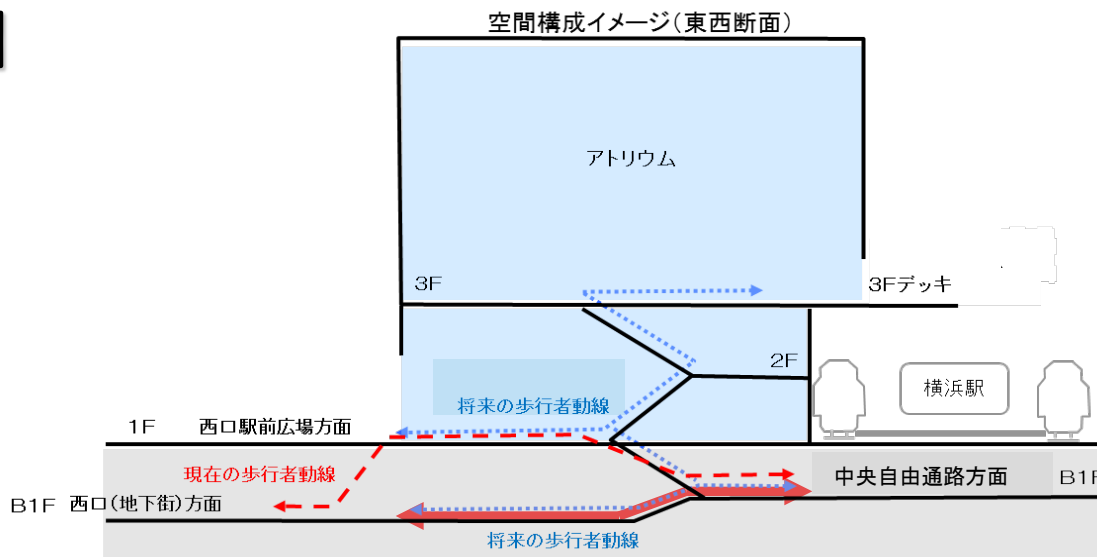
A 基盤整備の推進（馬の背解消工事 着工）

西口地下中央通路接続事業（馬の背の解消）

【現況】



【将来】



A 基盤整備の推進（西口駅前）

横浜駅西口駅ビル計画（リーディングプロジェクト）の先を見据えた、将来の横浜駅西口駅前の顔づくりについて地元関係者や専門家を交えた検討体制を構築



《検討項目》

- ・ 駅前広場機能の拡充・再編
- ・ 西口駅前広場隣接街区のまちづくり誘導計画の策定

（環境分野、防災・防犯分野、景観分野、歩行者・親水空間分野、交通環境分野）

《検討の進め方》

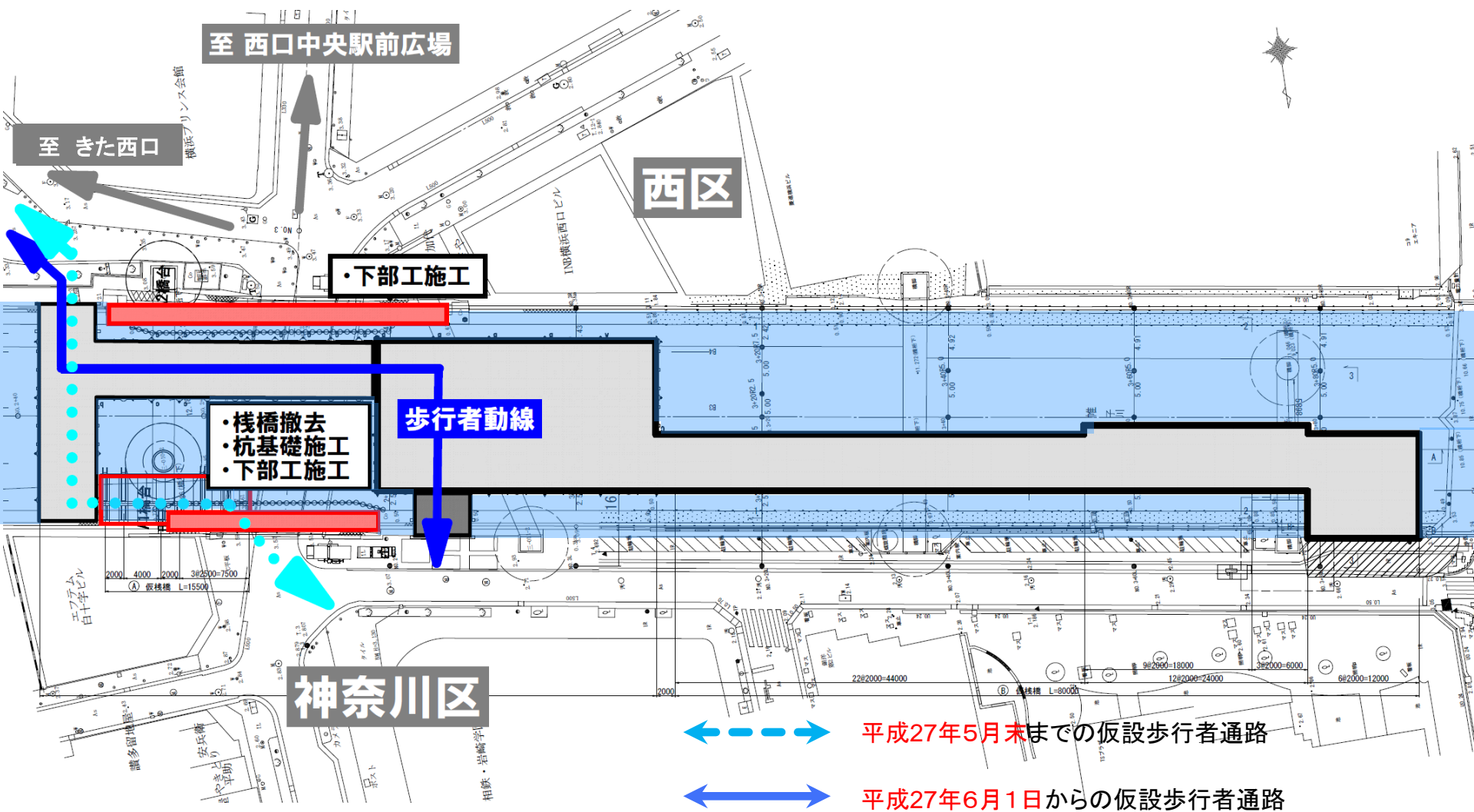
西口駅前広場に隣接する関係者や学識経験者による検討会を立ち上げ、検討を行う。

平成27年度 検討会立ち上げ
平成28年度 取りまとめ



A 基盤整備の推進（鶴屋橋架け替え）








○ 27年度の工事内容



A 基盤整備の推進（鶴屋橋架け替え）

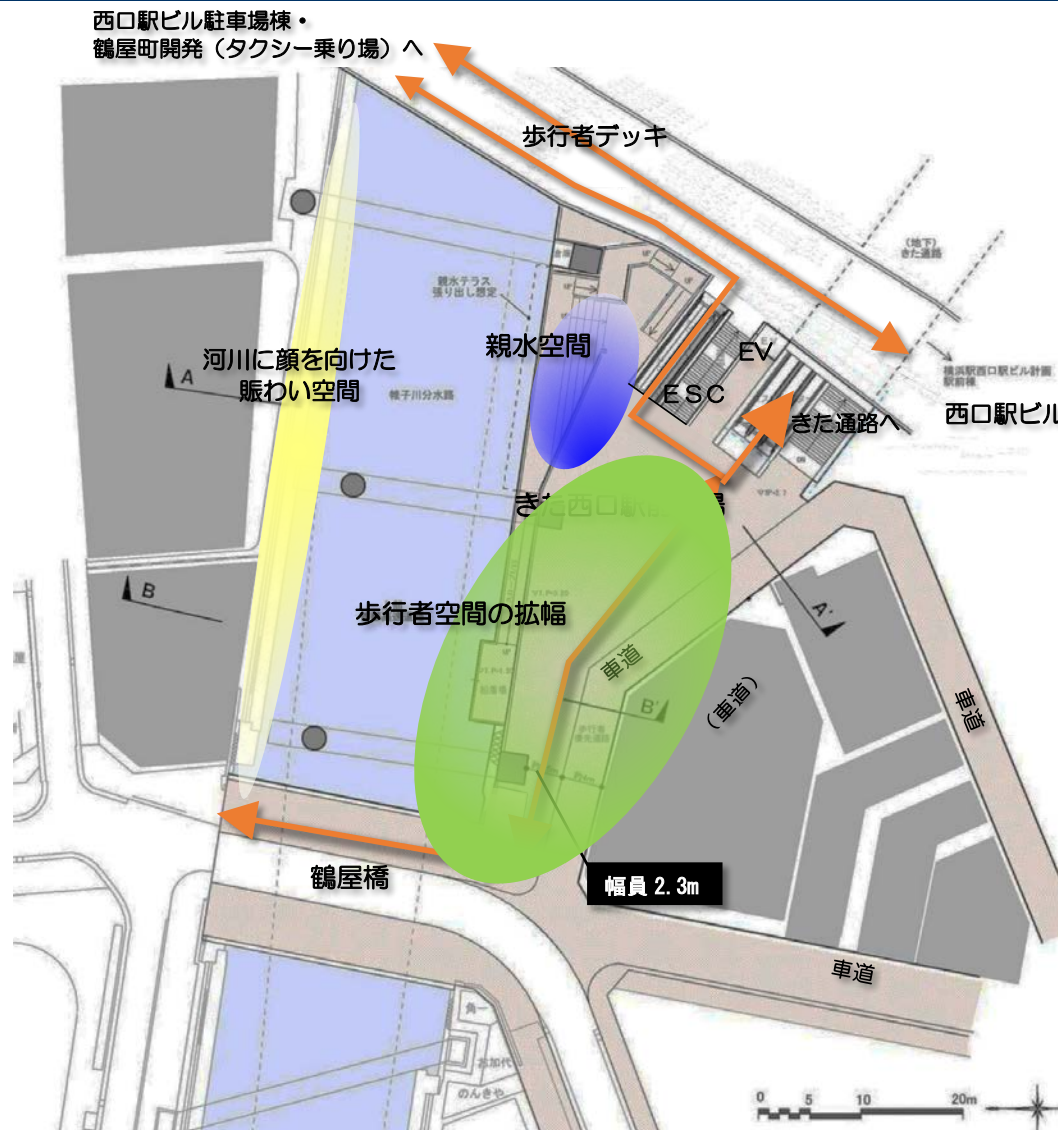
○ 概略工程表

※ 供用開始まで車両通行止め

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
基礎工				
下部工施工				
上部工 製作・架設				
橋面工				
取付道路工				
仮設栈橋撤去工				

A 基盤整備の推進（きた西口）

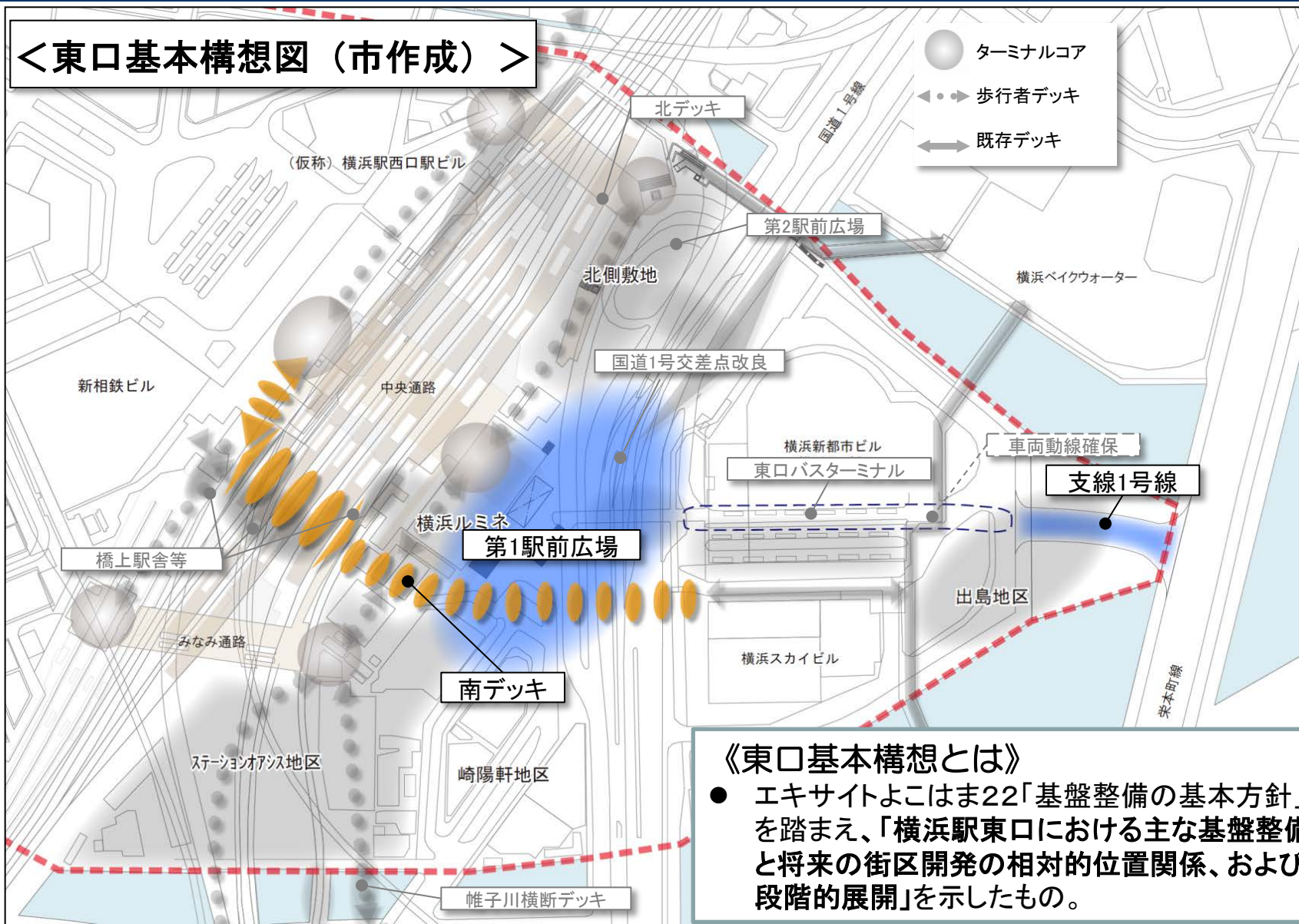
（きた西口駅前広場）
機能配置案と
空間デザインの考え方
イメージ



歩行者の流れ

A 基盤整備の推進（東口駅前基盤整備検討）

<東口基本構想図（市作成）>



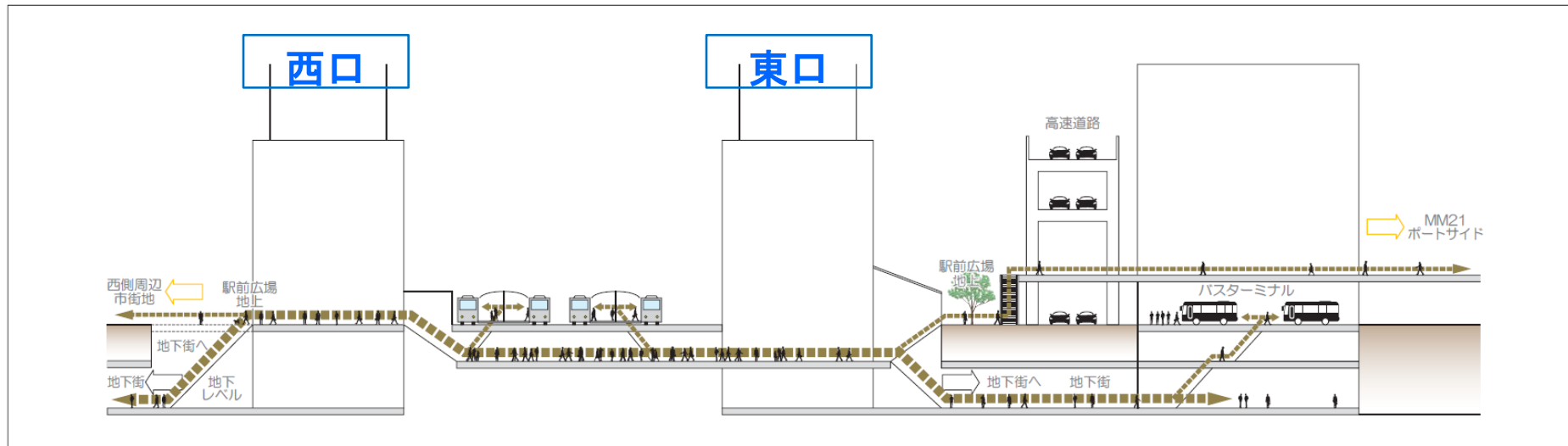
《東口基本構想とは》

- エキサイトよこはま22「基盤整備の基本方針」を踏まえ、「横浜駅東口における主な基盤整備と将来の街区開発の相対的位置関係、および段階的展開」を示したもの。

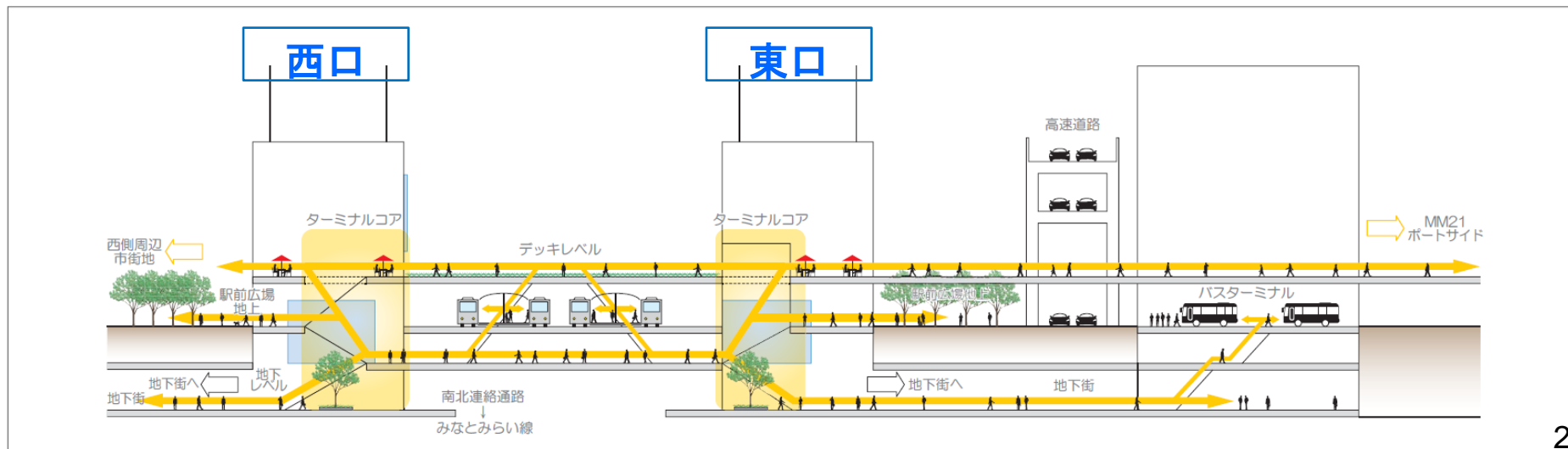
A 基盤整備の推進（東口駅前基盤整備検討）

<立体的な歩行者ネットワーク概念図（市作成）>

【現状の主な歩行者動線（概念図）】

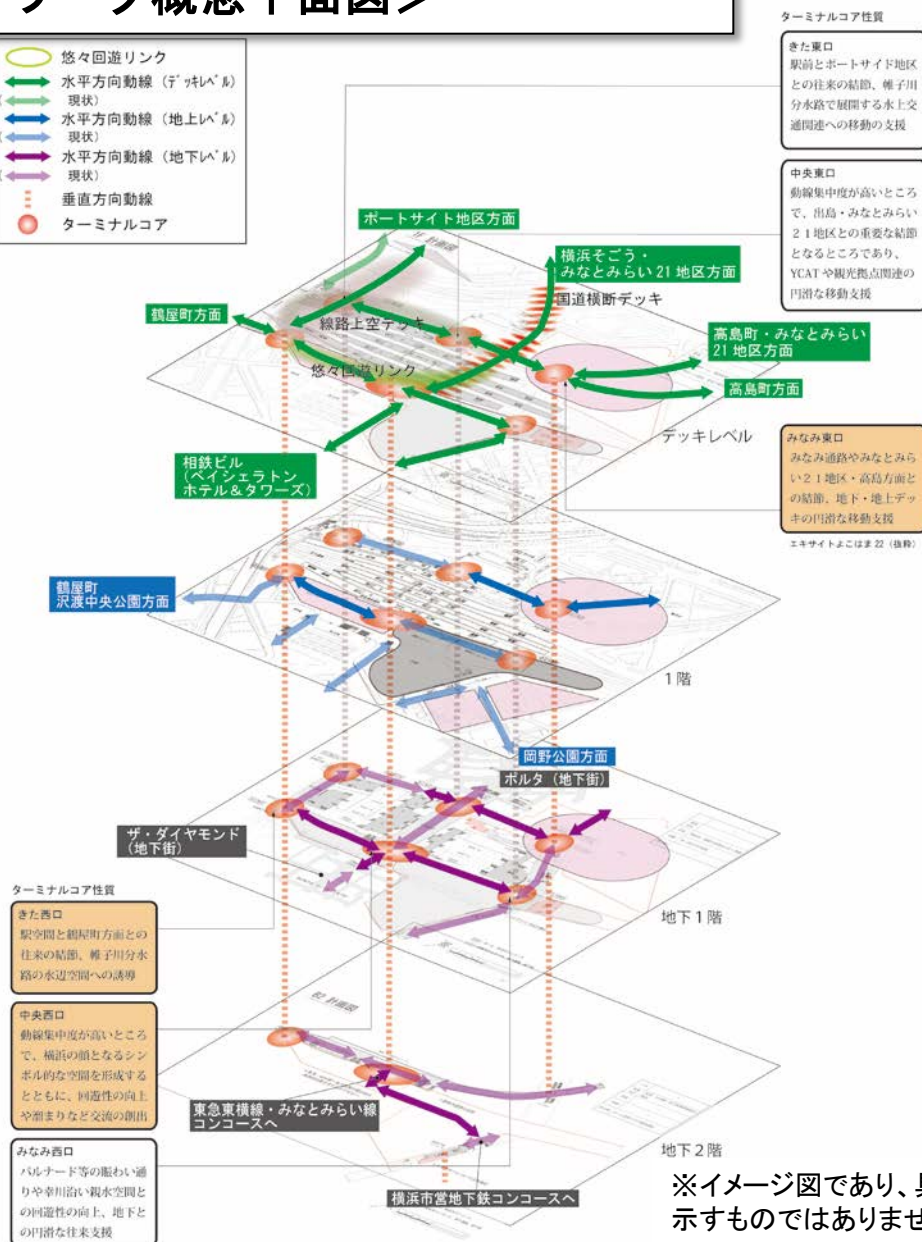
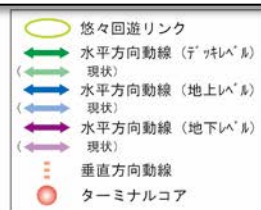


【将来の主な歩行者動線（概念図）】



A 基盤整備の推進（東口駅前基盤整備検討）

<立体的な歩行者ネットワーク概念平面図>



※イメージ図であり、具体的な位置規模を示すものではありません

A 基盤整備の推進（東口再編のコンセプト）

Open Sky Terminal

みなとみらい 21



隣接する街区の顔との対比



横浜の顔として魅力ある空間

- 横浜の観光拠点としての印象に残る景観づくり
- 国際的で多様な交流の生まれる憩いのスペース
- 立体的な一体感を持ち、空への広がりを感じる駅空間

災害にも安全安心な空間

- デッキレベルによる見通しのよい避難動線
- 避難場所として認知しやすい空間
- わかりやすくバリアのない歩行者動線

国際空港直結・世界への玄関口

- 羽田空港のアクセス強化
- 来街者にもわかりやすいユニバーサルな乗継動線
- 横浜都心臨海部全体へ案内するゲート機能

○ステーションオアシス計画と連携して、関連する基盤整備（駅前広場・南デッキ・支線1号線等）の平成28年度末の都市計画決定に向けて基本計画の策定を進めます。

A 基盤整備の推進（東口再編の機能配置の基本的な方針）

コンセプトを実現する 駅前広場のイメージ

国際空港直結・世界への玄関口



鉄道駅直結の
大阪駅バスターミナル



災害にも安全安心なまち



新横浜駅前のデッキ空間

横浜の顔として魅力ある空間



ドイツ ベルリン中央駅

機能配置の 基本的な方 針

地上
レベル

鉄道との接続（鉄道、車、人）
国道1号、首都高との接続

デッキ
レベル

Open Sky Terminal
見通しのよさ、
周辺商業とのつながり
海側から山側への避難

地下
レベル

周辺商業とのつながり

一般的に駅前広場は以下のような機能を持つ空間で構成される。（機能は「駅前広場計画指針」より）

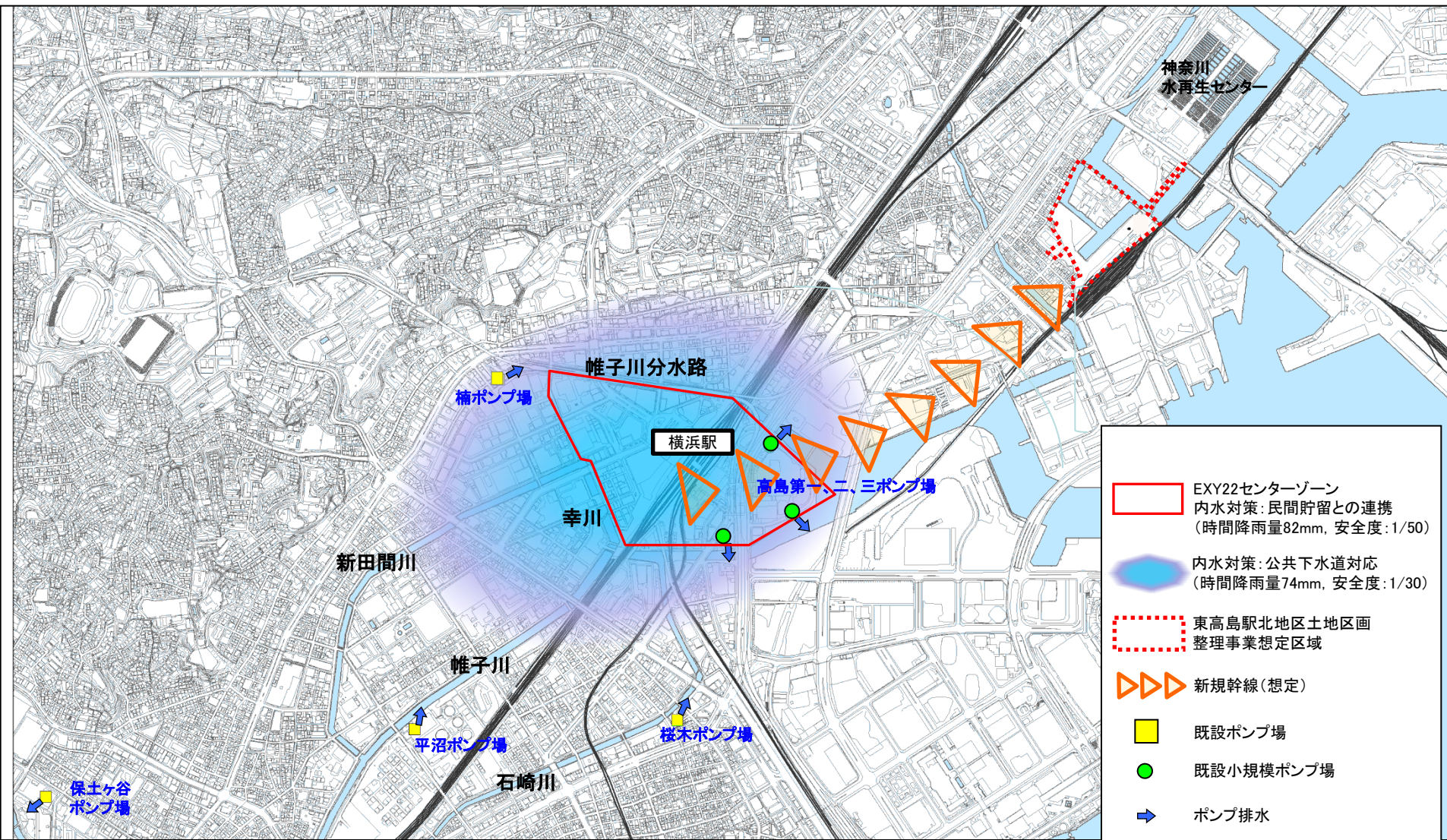
駅前広場の空間構成要素

機 能	東口駅前広場への導入機能
交通空間	<p>交通手段の乗換拠点として鉄道と多様な交通手段をつなぐ</p> <p>①交通結節機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港連絡バス ・都心臨海部回遊バス ・高速バス ・路線バス ・タクシー ・LRTなどの新たな交通
	<p>都市（地区）の拠点を形成する</p> <p>②市街地拠点機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすくバリアのない歩行者動線 ・駅とまちをつなぐシンボリックな歩行者空間 など <p>憩い・集い・語らいの中心となる</p> <p>③交流機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者滞留空間 ・民間開発と連続した賑わい空間 など <p>公共的サービスを提供・各種情報を提供する</p> <p>④サービス機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光や交通運行などの情報提供施設 ・災害時の避難情報等の提供施設 など <p>都市の顔としての景観を形成</p> <p>⑤景観・環境機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「横浜らしさ」を象徴する景観形成 など <p>防災活動の拠点となる一避難・緊急活動</p> <p>⑥防災機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく安全な避難動線 など

広場空間

A 基盤整備の推進（内水対策）

内水対策として、横浜駅周辺の治水安全度向上に向けて、海域に放流する下水道施設の整備に取り組みます。



A 基盤整備の推進（内水対策）

地下街等、商業施設が集積する東西のセンターゾーンの内水対策に官民連携で取り組みます。公共下水道の整備により時間74ミリの降雨（概ね30年に1度の確率で発生する降雨）に対応、さらに民間貯留施設の整備と併せて時間82ミリの降雨（概ね50年に1度の確率で発生する降雨）に対応した内水対策に取り組みます。

		第1ステージ（概ね10年）	第2ステージ（概ね10年～概ね20年）	将 来
外 水	河川	河川整備基本方針、整備計画の策定 河口部改修 設計・協議 鶴屋橋架け替え	まちづくりに合わせた 鉄道・道路橋梁架け替え 河床掘削	
	安全度(※1)	概ね1/20	概ね1/50	1/100
	mm/hr	概ね65	概ね82	93
内水と外水の連携		検討・調整		
内 水	下水	内水対策計画の策定 設計・協議 センターゾーン+隣接地区	施設整備	
	安全度	1/10	センターゾーン+隣接地区 : 1/30	
	mm/hr	60	74	
	開発にあわせた敷地内貯留	ルール確立 ・1/30→1/50 ・200m ³ /ha (仮称)横浜駅西口駅ビル開発	開発にあわせた敷地内貯留	
災害に強い防災・減災まちづくり	安全度	1/10	センターゾーン（西口）: 1/35	センターゾーン: 1/50
	mm/hr	60	76	82
			開発、建替えにあわせた地盤の嵩上げ 宅地・道路面などの計画的な地盤の嵩上げ	

※1 河川の治水安全度は、横浜駅周辺(西口)における流下能力を示す。

流域全体の治水安全度向上に向けては、河床掘削のための橋梁部の対策が必要。

A 基盤整備の推進（地下街防災推進事業）

大規模地震発生時における安心な避難空間の確保等を図るために、平成26年度に国土交通省が創設した「地下街防災推進事業」を活用して、さらに横浜駅の地下街の防災性を高めます。

「地下街の安心避難対策ガイドライン」

（地震時における地下街の防災対策を検討するための技術的な助言）

地下街管理者による防災対策に必要な取組（ハード・ソフト）を支援

<計画策定>

- ・安全点検調査
- ・施設改修計画の作成
- ・関係者の合意形成 等



計画に基づく
対策

<防災対策の取組>

避難路の拡幅



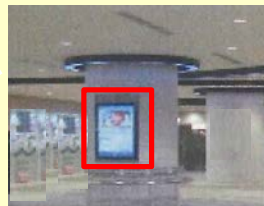
天井板等の補強



備蓄倉庫の整備



災害時の情報提供を行う デジタルサイネージ



非常用発電設備の 機能補強



周辺のビルや鉄道駅等との連携した取組の推進

B 民間開発の促進

- ・（仮称）横浜駅西口駅ビル
- ・鶴屋町開発（国家戦略特区）
- ・東口ステーションオアシス開発

B 民間開発の促進（（仮称）横浜駅西口駅ビル）

○駅前棟の工事着手に向けた取組の推進



B 民間開発の促進（鶴屋町開発（国家戦略特区））

○開発の方向性

～世界で一番ビジネスしやすい環境の整備～

○整備内容

- ①横浜駅と鶴屋地区を連結する歩行者デッキの整備
- ②駅前のタクシーの分散に寄与するタクシー乗降場の整備
- ③地震国日本においても不安を感じさせない優れた防災減災機能の整備
- ④緑化、エネルギー利用効率の向上などによる優れた環境性能の実現
- ⑤グローバル企業の多様なニーズに対応する多彩な住宅、ホテルの整備
- ⑥居住者の利便性を高める各種付帯施設サービス
- ⑦国際競争力をもった都市の玄関口に相応しい先進性をもったデザイン

B 民間開発の促進（東口ステーションオアシス開発）

○ 地区コンセプト（案）

～国際都市横浜の玄関口として、都心の魅力を実感でき、豊かな時間を過ごせるまち

- ①賑わいを創出する空間形成及び歩行者ネットワーク
- ②横浜駅東口の賑わい創出
- ③国際都市横浜の玄関口として相応しい印象的な都市景観
- ④国際交流に優れた都市機能の強化
- ⑤都心部における防災機能の強化
- ⑥自転車利用環境の改善
- ⑦環境対策など付加価値の向上

○ 平成28年度末の都市計画決定を目指して ステーションオアシス協議会で検討中

C 官民連携のまちづくり

- ・ はまマネ協議会 活動予定
- ・ 横浜駅西口での取組

C 官民連携のまちづくり（はまマネ協議会活動予定）

1 放置ゴミ・路上喫煙対策

・ 帷子川（幸川）護岸周辺



・ 南西口喫煙所周辺



・ 東口地下ロータリー上部



・ 東口喫煙所周辺



C 官民連携のまちづくり（はまマネ協議会活動予定）

2 地域活性化の推進

○国際化の推進

- ・ 各種表記・案内の多言語化の推進

○情報発信

- ・ 各種情報をブログにて発信

○エリマネ活動団体の認定

- ⇒ ・ 公開空地等での継続的な活動等が可能
- ・ 公開空地等使用の手続き簡素化が可能



「マンスリーコンサートINはまテラス」
（横浜駅東口はまテラス有効活用委員会）



「恋する♥横浜西口ハートフェス」
（横浜西口元気プロジェクト）

C 官民連携のまちづくり（横浜駅西口での取組）

既存組織

①横浜駅西口振興協議会（昭和38年3月設立）

メンバー：西口周辺の商業者・事業者

目的：横浜駅西口の商業振興、まちの活性化

②横浜駅西口周辺地区整備協議会（昭和56年1月）

メンバー：①＋西口周辺のビル所有者、自治会、行政他

目的：横浜駅西口駅前周辺の基盤整備

具体的な活動

①横浜駅西口中央E S Cの設置（昭和56・57年）と保守管理

①西口駅前派出所の寄贈（平成9年）

①西口セーフティハートの実施（平成18年度から）

①イルミネーション装飾や各種イベントの実施

②横浜駅西口ロータリー及び西口周辺の整備と維持管理

- ・特殊舗装、植栽柵の整備と保守管理

- ・西口周辺と駅前公衆トイレの日常清掃業務